

ガウスの記念碑について (2)

1 『大人のためのやり直し講座 幾何学』

マイク・アスキュー&シーラ・エバット著

ピーター・フランクル監修

緑慎也訳

創元社、2012年12月第1版第1刷

には、この記念碑については次のように書かれています。

(p.25)ガウスは、素数 p (7,11,13,53 など) の辺をもつ正多角形は、その素数が次の形であらわされるときにかぎり、作図できることを証明した。

$$p = 2^{2^n} + 1$$

この形であらわされる数は、のちに「フェルマー数」として知られるようになった。(なお、フェルマー数は素数とはかぎらない) この発見をきっかけに、ガウスは言語学者ではなく、数学者になろうと決意した。彼は生涯この成果を誇りにし、自分の墓碑に正十七角形が刻まれることを望んだ。残念にも石工が拒否して実現しなかったが(円のように見えてしまうと考えた)、ドイツのゲッチンゲンにあるガウスの記念碑の土台には正十七角形が刻まれている。

【2011年版の翻訳です。ゲッチンゲン?不明です】

2 『ガウスが切り開いた道』

S・G・ギンディキン著

三浦伸夫訳

シュプリンガー・フェアラーク東京、1996年

には次のように書かれています。

(p.71)「アルキメデスと同じように、ガウスは記念として正17角形を墓石に彫るように遺言した。このことはガウス自身がその発見をいかに重視したかを物語っている。その図形はガウスの墓石の上には描かれなかったが、ブラウンシュヴァイクにある記念碑の台座のうしろには17星形が刻まれている。ただし、見学者にはほとんどそれとはわからないのであるが」

(H・ヴェーバー)

【1986年の翻訳です。ここには「星形」と書かれています】

- 3 『素顔の数学者たち』（片野善一郎著、裳華房、2005年、第1版）には次のように書かれています。

(p.82) 彼はアルキメデスにならって、自分の墓碑には正17角形を彫ってほしいと望んでいたのも、彼の生まれ故郷のブラウンシュヴァイクには彼の望みどおりの記念碑が作られたということです。

【正17角形ではありませんでした。星形です】

- 4 『美しく感動する数の教室』（富永裕久、PHPエディターズ・グループ2013年2月、第1版第1刷）には次のように書かれています。

(p.131) ガウスは自分の墓標には、正十七角形を刻んで欲しいと言いつつ残していますから、ガウスはこの発見がよほど嬉しかったのでしょう。しかし、石工が作図できなかつたか、ガウスの墓碑には正十七角形は刻まれていません。そのかわり、生まれ故郷のブラウンシュヴァイクには、正十七角形の台座の上にガウス像がのっているということです。

【台座は正十七角形ではありませんでした】

- 5 『数学が思わず好きになってしまう本』（丑田俊二、中経出版、2002年、第1刷）には次のように書かれています。

(p.44) …。ガウスはこの作図法を自分の墓に刻んで欲しいと願いましたが、なぜか刻まれていません。しかし後の1877年、生地ブラウンシュヴァイク・ガウスベルクに、ガウス生誕百年祭記念碑が立てられました。日本ならば「ガウスが丘」でしょうか。花崗岩の台座の側面には、ガウスの願い通り、正17角形が刻まれています。

【正17角形ではありませんでした】

- 6 『大数学者』（小堀憲、新潮新書、昭和44年1月30日6刷）には次のように書かれています。

(p.19) 定木とコンパスだけで作図できる正多角形の辺の数は $2^m(2^{2^n} + 1)$ — m と n は自然数で、 $2^{2^n} + 1$ は素数一であることの証明で終わっているが、これの特別な場合が正十七角形であり、現実に、これをガウスが作図したことは、前に述べて

おいた。ゲッティンゲン大学を訪ねた者は、正十七角形の台座に
すえられたガウスの像の前にぬかずいて、この大数学者が樹立
した「円周等分方程式」の理論に、思いを馳せることであろう。

【ゲッティンゲン大学？】

7 『数学を築いた天才たち（下）』

スチュアート・ホリングデール著

岡部恒治監訳

有田八州穂、伊藤博明、伊藤和行、仁科弘之、藤田佳世ほか訳

講談社ブルーバックス、1993年11月20日第1刷

に、次のように書かれています。

(p.147) ガウスはその発見をとっても誇りに思って「私の墓碑には正17
角形を彫って欲しい」という望みを託している。これはアルキ
メデスのことを意識しての言葉に違いない。

彼の望みは叶えられなかったけれども、その名誉を称えてブ
ラウンシュヴァイクに建てられた記念碑には、そのような正多
角形が刻まれた。

【いま、ブラウンシュヴァイクの記念碑に刻まれているのは
星形17角形である】